

伊勢湾流域圏 の再生 シンポジウム

■ 会場：豊橋市
豊橋市民センター

■ 資料代 500円

Vol.3

2018年

2月10日（土）

13:30～

● 基調講演

「生物多様性と開発～生き物の視点から」
アキノ隊員（宮城秋乃）
日本鱗翅学会・日本蝶類学会会員

● 地域からの報告

田中 美奈子 「表浜まると博物館の取り組みと地域」
加藤 正敏 「三河湾の干潟・海岸の保全活動」
市野 和夫 「豊川水系の開発と環境」
桜丘高校生物部 会場展示など

● 10:00～「生物多様性条約 COP13報告！」も開催
〈裏面参照〉



2010年、名古屋で開催された生物多様性条約COP10において採択された「愛知目標」の達成期限まであと3年となりました。私たちは過去2回、愛知目標の達成を20項目の目標ごとにはなく、流域圏という広域的な視点から、また現場の眼を持つ市民の視点から考えようとシンポジウムを重ねてきました。3回目となる今回は、この2つの視点を鍛えるために沖縄の現状に着目しました。沖縄では昨年9月「やんばる国立公園」が誕生し、その先に来年の世界自然遺産登録が期待されています。選定基準は「生態系」と「生物多様性」と言われますが、一方で地域内の軍事基地は除外され、森を切り開いてのヘリパッド建設も進行しています。シンポジウムでは、焦点の一つ高江の自然を熟知するアキノ隊員の講演をうけ、この問題について考えたいと思います。

アキノ隊員

本名：宮城秋乃。沖縄県浜比嘉島出身。沖縄で森林性のチョウの生態を調査。主に沖縄県指定天然記念物のフタオチョウと準絶滅危惧種リュウキュウウラボシシジミ、そしてミヤコホソコバネオオハナノミを研究。2011年秋より東村高江・国頭村安波の米軍ヘリパッド周辺の生物分布調査を始め、2014年よりヘリパッド配備や米軍機の飛行が野性動物に与える影響を調査。日本鱗翅学会・日本蝶類学会会員。

田中 美奈子

夫とデザイン事務所を営む傍ら、2005年から夫が代表を務める表浜ネットワークの事務局長として海岸保全に取り組む。2016年からは、株式会社渥美半島ゆいの代表取締役として、表浜ネットワークが取り組んできた事をベースに、「表浜まるごと博物館」の運営を担い、地域に根ざした情報ステーションとして、自立する持続可能なNPOを目指している。

加藤 正敏

豊川の河口右岸の豊橋市前芝町はかつては、三河湾の海苔養殖発祥の地、ハマグリ・アサリの産地で、夏は海水浴場でもあった。ふるさとの良さを直し、地域の連帯感と海や川の環境を守る「みなと塾」主宰。河口干潟の保全や観察活動が地域住民の取り組みとして定着している。1943年生まれ。

市野 和夫

元大学教員(生物学、地域環境)。持続可能な地域づくりに関心を持ち、これまで、三河湾の汚濁問題、豊川水系の環境問題などに研究者と市民運動のつなぎ役として関わってきた。1946年、豊川中流域で生まれ、現在も同じ地区に住んでいる。

桜丘高校生物部

豊橋市内を流れる朝倉川の生物調査、表浜の外来植物調査、石巻山の陸貝調査など、活発に部活動を続けている。これまで、活動の成果を3回にわたって、リーフレットにまとめ、小中学校などに届けている。

同日開催！

生物多様性条約 SBSTTA21/ 8J ワーキンググループ報告会

日時：2月10日(土)午前10:00～12:00

会場：豊橋市民センター(カリオンビル)

主催：国連生物多様性の10年(UNDB)市民ネットワーク

2017年12月11日～12月16日までカナダ、モントリオールで開催された、生物多様性COP14(2018年エジプトで開催)に向けた中間会議の報告会をします！

報告者：坂田昌子、三石朱美

【会場案内】

豊橋市民センター(カリオンビル)
豊橋駅より徒歩5分
(施設の駐車場はありません)



主催：伊勢・三河湾流域ネットワーク
国連生物多様性の10年(UNDB)市民ネットワーク
中部の環境を考える会
四日市ウミガメ保存会
よみがえれ長良川実行委員会

■問い合わせ：

009-1284-1298 (武藤)



*このイベントは地球環境基金の助成を受けて行っています。